

令和 5 年度大牟田市総合教育会議 会議録

◆ 日 時 令和 5 年 10 月 13 日（金）14 時 00 分～14 時 55 分

◆ 場 所 大牟田市役所北別館 4 階 第 1 会議室

◆ 出席者

関市長、谷本教育長、嶋田委員、山本委員、東委員、木場委員
教育施策関係部署

（企画総務部）森部長、木村副部長、世界遺産・文化財室 加藤室長

（市民協働部）高口副部長、生涯学習課 徳川課長、村上地域学習担当課長、スポーツ推進室
西村室長

（教育委員会事務局）平河教育監、桑原事務局長、伊藤事務局次長、学校再編推進室 中野室
長、教育みらい創造室 松葉室長、宮崎指導主事、学校教育課 小宮課長、指導室 杉野室長、
学務課 黒田課長、内野主査、木下給食担当課長、人権・同和教育課 佐藤副課長

（事務局：企画総務部総合政策課）新田課長、河野主査、小山

・傍聴者 1 名

◆ 議 事

[議題]

1. 令和 6 年度以降の大牟田市教育の振興に関する大綱について

事務局より説明後、協議。

委員 施策 6 について、人権に関する教育啓発については、教育委員も毎年研修
会が実施される。人権については、常日頃当たり前のようになく過ぎて
いくことであるが、啓発を推進するとの記載があるのは、大変ありがたい。

市長 この大綱については、総合計画の策定と合わせ、引き続き市民のご意見を
いただきながら決定したいと考えている。

引き続き、この大綱に関わらず、自由な意見交換の時間としたい。

委員 小中一貫教育制度については、宮原中学校区に地域学校協働活動推進員や
常駐のスクールソーシャルワーカーを配置していただいた。特別支援教育支
援員の増員については、学校訪問をすると、支援員が児童についている姿を
よく目にするようになり、市で支援員を増員していただいたということがわ
かる。加えて、教職員の働き方改革に繋がる部活動指導員の配置や、トイレ
の洋式化、特別教室への空調設備の設置など、予算面の配慮をいただいた。

また、子どもたちが文化芸術に触れることについては、子どもたちの体験
活動に協力していただいたことに感謝を申し上げる。

9 月議会で子ども・子育て応援条例が制定され、今後、子ども・子育てに
関する計画が策定されると聞いた。そこで、現在、大牟田市には、子ども・

子育て関係でどのようなものがあるか、大牟田市の市勢要覧を見てみた。市勢要覧には、移住者の方のお話が載っており、いずれも大牟田出身でUターンされた方であった。テレビや新聞雑誌等でも移住者の話はよく出るが、移住の理由には、ほとんどが子どものためや、子どもの環境のためというものが多く、大牟田市が移住に対して何か情報を出しているか見てみたところ、大牟田市のホームページには、一番下に移住定住というところがあった。お試し居住、移住相談受付中などと書いてはあったが、子どものために移住しようと思われる方は、くらし、環境、産業経済、教育、スポーツ、文化など別々にページを見ていかないといけない。そこで、大牟田市の子ども・子育て支援や教育の充実について、市民や全国に向けた動画を作っていただきたい。「大牟田版ゆりかごから墓場まで」ではないが、力強く発信していただきたい。

学力向上については、本市では長い間課題となっている。学校訪問の際にタブレットドリルの必要性についての意見が出される。学力に応じてA、B、C、Dの層に分けると、C・D層の学力の底上げ等のためには、個別の指導が必要だと言われている。そのためにはタブレットドリルが必要である。タブレットドリルがどのようなものかという点、A、B、C、Dのどの層にもAIが個別指導を実施し、正解すれば発展問題が出てくるし、間違えれば間違えたところを強化する問題が出てくるものである。先生方もタブレットドリルは良いとおっしゃっていたし、校長会でも要望していると聞いている。校長裁量の予算で購入した学校もあるようだが、購入した学校では、よい結果が出ていると聞いている。ぜひ、算数と数学だけでもご支援をいただきたい。

また、学力向上のために、テスト業者が実施している実力テストの予算支援をお願いしたい。各学年に定期的に導入することで、子どもたちの学力はもちろん、先生方の自作のテストが内容の質・量ともにいいのかどうか、先生方にとっても勉強になるとのことである。南筑後教育事務所管内で大牟田だけが業者テストを導入していないと聞いている。ぜひとも導入をお願いしたい。

市長

これまでの間、様々な教育に関連する施策をできる限り充実させてきたつもりである。移住定住の点については、確かに様々な取組を実施しているが、まとめてPRできていない部分もご指摘のとおりであろうかと思う。動画というご提案もあったため、担当セクションと一緒に検討したい。また、親御さんは働く必要もある。やはり働く場所を作っていく、そして子どもたちの生活や教育環境の充実も図る、この2つを合わせながら、しっかり移住定住に取り組んでいきたい。

また、タブレットドリルと実力テストについては、予算の問題もあるが、十分に教育委員会の話を聞きながら、来年度に向けて検討して参りたい。

委員

小中一貫教育制度については、令和5年度から宮原中学校区で本格的に導入された。試行的導入の段階から、地域学校協働活動推進員の配置や、常駐のスクールソーシャルワーカーを配置していただくご支援をいただいた。制度の本格的導入の前から、宮原中学校区では、中1ギャップの解消や不登校生徒の減少に成果が現れていた。また、現在試行的導入が行われている宅峰中学校区、松原中学校区においても同様の成果が現れている。これもひとえに準備段階からの人員配置に支援いただいたおかげである。

歴木中と橋中では、毎月再編協議会が開催されている。再編の要となる地域学校協働活動推進員を前倒して配置していただきたい。推進員は、地域、PTA、学校間の調整を担っており、スムーズな運営のためにも専任の人材がそこにいるということ、早いうちから配置されることは本当に効果的なことである。宮原中学校区では、早いうちから配置したことで、現在では、地域とともにある学校づくりや学校を核とした地域づくりが進んでおり、校区内の全ての小学校で、地域やPTAの支援のもと、放課後子ども塾が開催されるころまで進んでいる。やはり、学校、地域、家庭の連携によって、もっと大牟田の小中一貫教育制度が深まるように、早めの人員配置をお願いしたい。

次に、義務教育学校は、小中一貫教育の先進的な研究実践校となると思う。9月議会において、松原中学校区への義務教育学校の設置に向けた準備を進めていくとの方針も示された。松原中学校区は、歴史的にも長い時間をかけて小中一貫教育に取り組んでこられている。私たち教育委員もしっかり議論していく所存だが、松原中は校舎も体育館も古くなっている。設備の面では、どうしても大きな予算が必要になってくるので、重ねての支援をお願いしたい。

続いて、松原中に関しては、夜間中学についてもお話ししたい。大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会から、設置する方向で進めることが妥当という答申がなされ、9月議会でも夜間中学設置について議論がなされたことは伺った。現在、教育委員会では、令和6年4月開校に向けて準備を進めており、本日、夜間中学設置基本方針を議決したため、学びの多様化学校、いわゆる不登校特例校も国に申請していきたい。誰一人取り残されず、学び直しの機会を保障する役割をしっかりと担い、生徒一人ひとりが入学できて良かったと安心して通学できる場になっていけるように、我々教育委員も一緒にしっかりと議論して準備していきたい。

最後に、不登校児童生徒については、文部科学省から、誰一人取り残さず学びの保障を実現するための「COCOLOプラン」が示されている。私は、このCOCOLOプランには、言葉一つ一つに大事なことが込められていると思う。COCOLOプランでは、一つ目に、不登校の児童生徒全ての学びの場を確

保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整える。二つ目に、心の小さな SOS を見逃さず、「チーム学校」で支援する。三つ目に、学校の風土の「見える化」を通して、「みんなが安心して学べる」場所にする。このプランを見ながら、私たちもしっかり胸に秘めておかなければいけないと思ったところであるが、残念なことに、スクールカウンセラーの配置時間が少なく、どうしても相談したい時にすぐに話を聞いてもらえないという保護者や先生の声を耳にしたことがある。スクールソーシャルワーカーの配置については支援されているが、ともに大切なスクールカウンセラーについては、現在の県からの配置だけでは足りないのが現状である。COCOLO プランの二つ目にもある、心の小さな SOS、それを見逃さないためにも、ぜひ市の独自予算でスクールカウンセラーを確保していただき、一人ひとりが相談しやすい環境を整えていただきたい。同じく COCOLO プランの一つ目にある、学校内外を含めた学びの場、居場所となる校内教育支援センター的なものの確保や、その場合の専任人材の配置など、COCOLO プランは本当に大切なものであると私は感じている。できるところからで構わないので、ご支援いただきたい。私たちのこれからの大牟田を担う子どもたちなので、大切に育んでいきたい。

市長

小中一貫教育については、試験的な取組から順次、本格的な取組へと今進めているところであり、着実に成果が出ているという報告を私も受けている。そういう意味では、小中一貫教育を全市的に進めていくことは大切なことだという認識でいる。地域学校協働活動推進員の配置や、義務教育学校の校舎整備の話、COCOLO プランに関連してスクールカウンセラーの配置の問題の話をいただいた。ご指摘ご意見については、ごもっともだと考える。しかし、予算にも限りがあり、市議会の理解も必要である。そうした中、しっかり教育委員会からも話を聞いて、場合によっては優先順位をつけながらできるところからしっかり取り組んでいきたい。

夜間中学については、誰一人取り残さないという今の教育の考え方、そのためにも必要な学校だと認識している。こちらについても教育委員会と一緒に、しっかり準備を進めて参りたい。

委員

特別支援教育支援員の配置についてお話ししたい。各学校への特別支援教育支援員の配置についてはご支援いただき感謝している。支援を必要とする児童生徒が年々増加する傾向にある中、支援が必要な児童生徒の情緒的な安定や安全面の確保に向けた支援だけでなく、担任教員等の連携による学級全体の落ち着きにも大きな影響を与えるものである。令和 5 年度において予算増額による体制強化が図られ、保護者からも感謝の言葉を聞いている。その一方で、各学校現場においては、支援が必要な児童生徒は一人ひとり支援の

内容や度合いが異なり、支援員においては、体力面も含め、厳しい環境のもとにあるとの声もある。引き続き人材確保、増員配置が可能となるように、処遇改善の検討も含めたご支援をよろしくお願ひしたい。

もう一つは、教職員の働き方改革に向けた人員配置についてである。教職員の働き方改革については、教職員のなり手不足にも繋がっている大きな課題と考えられる。現場の先生方の大変な声も多く聞こえている。新型コロナウイルス感染症の感染対策においては、各学校にスクール・サポート・スタッフや学習指導員が各1名配置されたこともあり、学校現場において、学習指導や生徒指導など、教職員の本来の業務への集中や時間の確保が図られ、教職員から、とても助かっているとの声が聞かれている。新型コロナウイルス感染症については、5類となったものの、ウィズコロナ、アフターコロナにおける学校教育活動の推進は、引き続き厳しい環境下にある。本市においては、教職員の長時間勤務の改善に向けた教育課程や行事等の整理・効率化、部活動指導員の配置など教職員の働き方改革を積極的に進められており、家庭を持つ教職員も働きやすい環境の中で、子どもと向き合う時間の確保と合わせて、長時間勤務の改善にも取り組まれている。教職員の働き方改革の一層の推進に向けて、教職員が子どもとしっかり向き合い、児童生徒の指導や授業の準備等に集中できる環境づくりに必要不可欠な存在となっている。これまで配置されてきたスクール・サポート・スタッフや学習指導員の配置については、学校現場の実情を踏まえた役割が担えるように、実効性のある柔軟な対応と十分な予算の確保が必要だと考えられる。先日、文部科学省が教員の事務作業などを支援するスクール・サポート・スタッフの人件費補助を、現行の約13,000人分から来年度は28,000人超分に倍増させる方針を固め、あわせて学習指導員も2,000人以上増やすという情報を目にした。教育委員会では、事業スキームの見直しを図り、不登校対応、不登校の関わりを持てるスタッフを含めた支援員の配置を考えているところであるが、引き続き予算を確保し、支援をお願ひしたい。

市長

特別支援学校に通うお子さんも年々増えている。このことは、以前は、もしかしたら障害があるということが十分に把握できなかった時代から、きちんと一人ひとりの子どもたちを見る時代になったことも関連しているのではないかと思う。そういう意味では、特別支援教育は非常に大事なことだと考えている。今、お話があった必要な整備、必要な人員についてはできる限り整備していきたい。

次に、教職員の働き方改革については、私が思うには、先生たちもしくは教職員の生活の大事な部分でもあるが、そのことによって、先生たちが一人ひとりのお子さんと向き合うことができる、そういう学校を作っていくことだと思う。人員の配置の問題もあるが、教育委員会で現場の声を聞きながら、

新しい教育課程の編成もなされ、現場と一緒にあった教育委員会の努力によって、一人ひとりの子どもたちと向き合うことができれば、先生たちも安定した生活を送れる、そういう方向に向かってきているのではないかと考えており、とても高く評価をさせていただいている。

最後に、国の支援のお話があった。やはり自治体の予算には限りがあるため、国に対し特別支援教育への支援、もしくは必要な手当を要求して参りたいと考えている。

委員

中学校の部活動については、令和5年度から、部活動の地域移行支援ということで、部活動指導員の配置が進められている。指導員の確保は、意外と難しく、簡単ではないと聞く。学校では様々なネットワークを活用し、人材確保に努めているという現状がある。そのような中、部活動指導員が研修会や地区大会に参加する際に本人の費用負担が発生するケースがあると聞いている。行政からのある程度の支援はあるようだが、それでもなかなか賄えていないという状況である。予算も厳しいと思うが、指導員の負担がなるべくないようにお願いしたい。また、それぞれの部活動で、筑後地区大会に参加する時のバスの借上げなどの費用に関する問題がある。関係者からは、少なくとも筑後地区の他市では、市からの補助など公費で負担しているところが多いと聞いている。残念ながら本市では、その費用をPTA会費などで賄っていたり、保護者の直接負担としていたりという話も聞く。さらに費用の問題だけでなく、大会出場のため、保護者や引率者が自分たちで運転して、送迎をしている。そのような場合、もし交通事故があった場合のその責任や補償などの複雑な問題も起こる可能性がある。このようなことを含めて、今年度のPTA連合会からの陳情でも、部活動における活動費の支援を求められているため、ぜひ本市でもバスの借上げ費用の補助等についてご支援をお願いしたい。

もう1つは、教育環境の充実についてである。まずはお礼から申し上げたいが、日頃からトイレの洋式化や多目的トイレの整備、特別教室への空調設備の設置、また、体温調節が難しい児童生徒のために体育館を使用した教育活動ができるように、特別支援学校の体育館アリーナに空調設備を設置するなど、様々な面で環境の充実に取り組んでいただいていることに本当に感謝している。そのうえで、学校施設については、経年劣化や老朽化が最近非常に問題になっており、適宜補修については対応してもらっているが、施設の老朽化だけではなく、近年は大雨の影響による被害も続けて発生しているという報告もある。子どもたちが安全・安心に過ごすことができる環境整備は、今後も重要なものと考えられるため、校舎の壁面や床面の補修、雨漏りなどの学校施設の補修ももちろんだが、毎年、学校の方から強く要望があるのが、学校施設内の樹木伐採や剪定などである。樹木の伐採や剪定に関しては、現

場は非常に苦慮しているようで、毛虫が大量に発生したり、子どもたちが虫に刺されるなどの話を聞いている。このようなことも含めた教育環境の充実に向けて、引き続きご支援をお願いしたい。

市長 中学生の部活動は、教育の一環だと思う。子どもたちが心も体も豊かに成長していくうえで、大きな役割を一つ果たしていると思うし、大変大事なことだと思っている。その中で、部活動指導員については、特に休日の指導等をお願いすることを試験的に始めたばかりのため、うまくいっている部分と改善すべき部分について現場の声を聴きながら改善していく必要がある。ご指摘のとおり、なかなか人材が見つからないという話も伺っている。そうした中で、どのような形で進めていくのか、検討も必要かと考えている。研修等の負担であるとか、地区大会へのバスの借上げの問題について指摘をいただいた。すぐに改善できるものとできないものがあるが、ご指摘を十分受け止め、検討して参りたい。

最後に、施設の老朽化や学校環境整備のための樹木^{せん}剪定のお話があった。これも、現場の方からは再三ご意見をいただいている。それぞれの学校の実情を伺いながら、教育委員会と協議し、必要なものについては予算を付けていきたいと思う。

教育長 教育委員の皆さんには、日頃から様々に勉強していただいている。勉強会を繰り返しながら、学校の実情をしっかりと見ていただいております。学校訪問や各種イベントにも参加していただき、教職員の意見や保護者の意見、そして地域の意見を取り上げていただいております。本当にありがたく思っています。

市長 総合教育会議の場で教育委員の皆様からご意見をいただいたことは大変重く受け止めています。予算にも限りがあるため、今後の予算編成の中で、ご意見を十分に踏まえながら検討させていただきたい。引き続きのご支援・ご指導をお願いしたい。

以上（14:55）終了